

フィリピン

内航海運近代化事業



本事業にて購入された船舶

[借款概要]

承諾額/実行額	15,000百万円 / 12,700百万円
借款契約調印	1994年12月
借款契約条件	金利3.0%、返済30年（据置10年）
貸付完了	2000年3月

[事業概要]

内航海運業に従事する民間船主、造船修理事社等にフィリピン開発銀行を通じて、低利の中長期資金を供給し、島嶼間海運のための各種船舶の購入・修理等を支援するとともに、造船・修理設備、荷役設備の近代化によって、海運の効率化と安全性向上を図るもの。

[評価結果]

本事業は56件のサブ・プロジェクト（借入企業数41）を対象とし、新造船（56件）、中古船（52件）の調達、船舶修理（6件）、荷役設備の新設・修理（5件）が行われた。また、コンサルタントは、開発銀行の融資審査への指導、トレーニングプログラムの開発、マーケット情報の提供等の技術支援を行った。

本事業により調達された船舶の輸送能力は約15千人、95千トンに上り、比国全体の新規船舶数（95～99年計548隻）の約2割、トン数で約半分を占めた。この結果、島嶼間フェリー、小型高速船等の運行が増加し、市場や収穫後処理施設への農民のアクセスの改善、地域住民の通勤・通学の容易化等の効果をもたらしたとされる。

なお、サブローンの返済に関し、延滞率は99年まで1%未満であったが、通貨危機後のペソの下落を背景に一部企業の経営が悪化しているため、今後の動向に留意する必要がある。